

壊れゆく“若者たち”

File.54 デジタル症候群 ～Vチューバーから始まる新時代

文 石井 通明 text by Michiaki Ishii

日本が世界に誇れるものとは何でしょうか。自動車や電子機器を世界に誇った時代は、もしかしたら少し前のことと言われてしまうかもしれません。それは今は、日本のサブカルチャーであると言えるのではないのでしょうか。具体的にはマンガ、アニメです。世界中の若い世代は「ジブリ」「ドラえもん」「ドラゴンボール」「ワンピース」「NARUTO」といえば、ほぼ知っています。秋葉原を中心にオタク文化が全盛を誇り、アニメを好む訪日客からは聖地として崇められているほどです。

そんな中、今年、新たなムーブメントを予感させる「Vチューバー」という言葉が出てまいりました。これは「バーチャルYouTuber」の略称なのですが、VRゴーグルをかけ、リアルなバーチャル空間を楽しむというものです。この空間にはVRアイドルが存在し、3Dアイドルだけではなく、アニメのキャラがライブを行う2Dアイドルもとても人気があります。これらのアイドルはバーチャル空間の中だけで活動を行っており、生ライブも行われたりしています。利用者はまるでライブに参加しているかのような、とても臨場感のある空間が体験できることなのですが、いよいよここまで



Profile
東京都大田区生まれ。
英国ウエールズ大学MBA（経営管理修士）。
日本交渉学会会員。ハーバード流交渉学・消費者行動心理学・コンフリクトマネジメントを研究。日本コールセンター協会情報調査委員。
（株）グッドクロス取締役COO
長年コールセンター運営に携わり、人と人のコミュニケーションについての研究を進めている。思いやりのコールセンターを展開。
becall1031642012088
[http://www.becall.jp]

来てしまったか、と色々な価値観が変わっていく恐ろしさを感じてしまいました。

ライブですら、自分がその場所に行かなくても、事足りるようになるのかもしれない。部屋に座って、VRゴーグルをつけて、その場で異世界を体験するので。音楽のライブ、演劇だけでなく、バーチャルでリアルタイムな空間の共有ができるなら、学校の授業もバーチャルで行われるようになる可能性があります。つまり、人が移動して一つの空間に集合する必要がなくなるのです。全て自分の部屋で色々なことが事足りてしまうという新時代の始まりかもしれません。人間が自分の肌で感じて得るものや、顔を突き合わせて行うコミュニケーションも、時代の進化と共にドンドン失われて行くことになると言えます。今すでにスマホによって起きているコミュニケーション

ションの弊害が更に進むことになりま。すべての娯楽がバーチャルに変わっていったら、人の心も作られたものへと変わっていったら、歯止めが利かないことに悲しさを覚えま。す。

